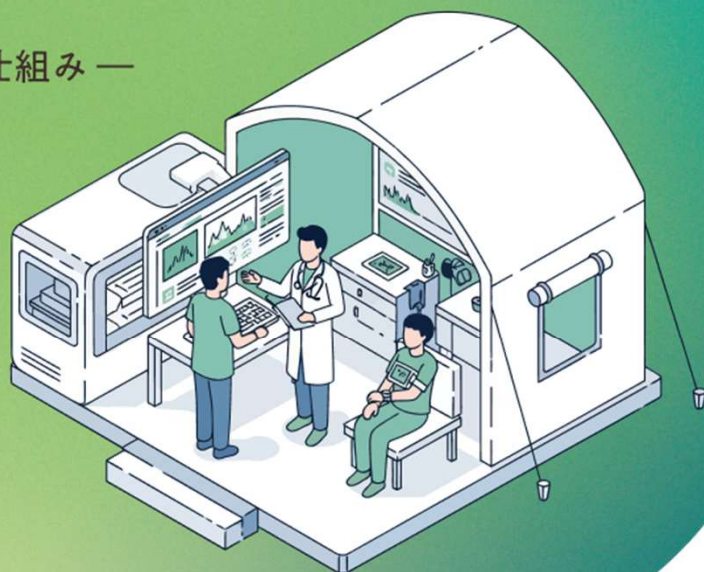


平時から 災害時までを 支える

パーソナルヘルスレコード
(PHR)による情報連携

— 住民・医療・自治体・避難所をつなぐ仕組み —



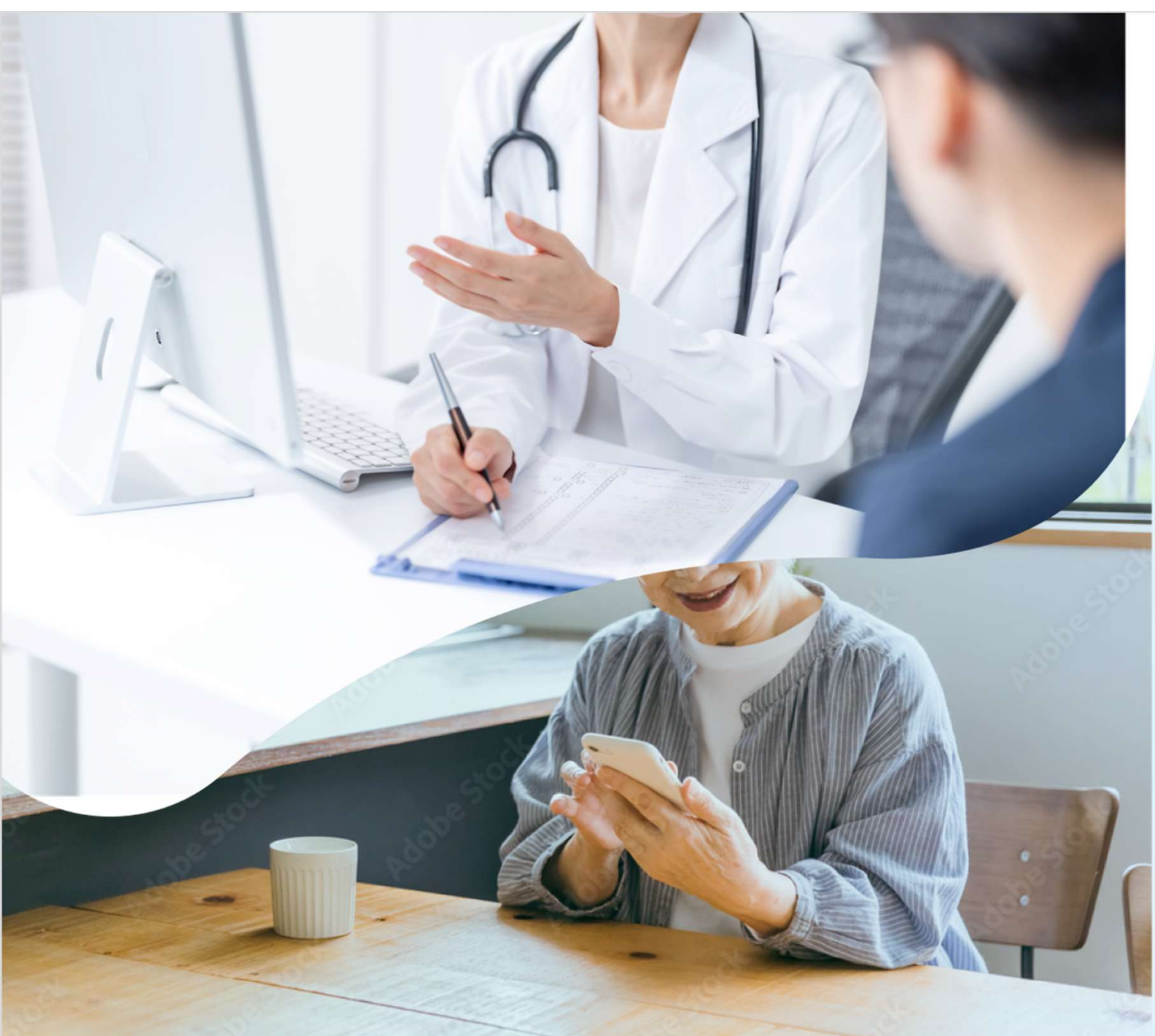
一般社団法人
PHR普及推進協議会
PHR Council



あんしん健康日記

平時の健康管理が、災害時の命を支える。

QR



PHR普及推進協議会(PHRC)について

PHR普及推進協議会(PHRC)は、PHRの社会実装を目的とした協議体です。

産官学・医療・IT分野の関係者が参画し、平時および災害時におけるPHRの利活用推進に取り組んでいます。実際の災害現場で得られた知見を踏まえ、医療・支援活動を支える情報連携基盤の構築、標準化推進、実証事業等を進めています。

PHRとは

PHR(Personal Health Record)とは、個人の健康・医療情報を、本人が主体的に管理・活用できる仕組みです。健康診断結果、服薬情報、既往歴、予防接種歴、日々のバイタルデータなどを一元的に管理し、必要なときに医療機関や支援者と共有することができます。

能登半島地震での取り組み

震災発生後、PHR普及推進協議会では、被災地支援とあわせて「災害時におけるPHR活用の可能性」について検討を開始しました。現場ヒアリング、関係者との議論、実証活動を重ねながら、災害時の健康情報連携の在り方を模索してきました。



震災発生・支援検討開始

PHR普及推進協議会内で被災地支援およびPHR活用の可能性について検討を開始。

2024年1月



災害時PHRの可能性を協議

毎年開催のフォーラムに併せて「PHRで何ができるか」をテーマに会議を実施。

2024年2月



特別委員会の設置

継続的な活動を行うため「大規模災害発生時のPHRの役割に関する特別委員会」を新設。

2024年4月



七尾市に健康支援拠点を設置

田鶴浜地区にトレーラーハウスを設置し、健康測定と相談の拠点を開設。

2024年7月



PHR測定体験イベントを実施

七尾市にて測定会を実施。地元看護師による健康相談とあわせ、PHR活用を推進。

2024年8月



定期PHR測定会を実施

プロバスケットチームとも連携し、避難者の健康管理、及び医療との連携をサポート

2024年8月以降

能登半島地震で見た構造的課題

1 情報の分断

既往歴や服薬情報、日々のバイタルデータが医療者間で十分に共有されない。

2 紙運用における事務過多

お薬手帳の紛失、手書き記録の煩雑さで現場が疲勞し、ケアの質が低下

3 判断・支援の遅れ

既往歴や服薬情報、日々のバイタルデータが医療者間で十分に共有されない。

これらの課題は、「平時から活用できる健康情報基盤」が存在しないことに起因しています。

その基盤となるのが、PHR(Personal Health Record)です。

あんしん健康日記でPHRを記録し、 “日常”と“災害時”をつなぐ

日々の健康記録を蓄積し、必要な時に、必要な情報を安全に共有。
平時から使われているPHRが、災害時の支援を支えます。



健康データの
一元管理



異常の早期把握・
セルフケア支援



医療者との
安全・迅速な共有



災害時にも
活用可能な設計



あんしん健康日記

平時の健康管理が、災害時の命を支える。

— 管理できる主な健康情報 —



バイタルデータ



服薬情報/
お薬手帳



既往歴/
疾患情報



アレルギー情報

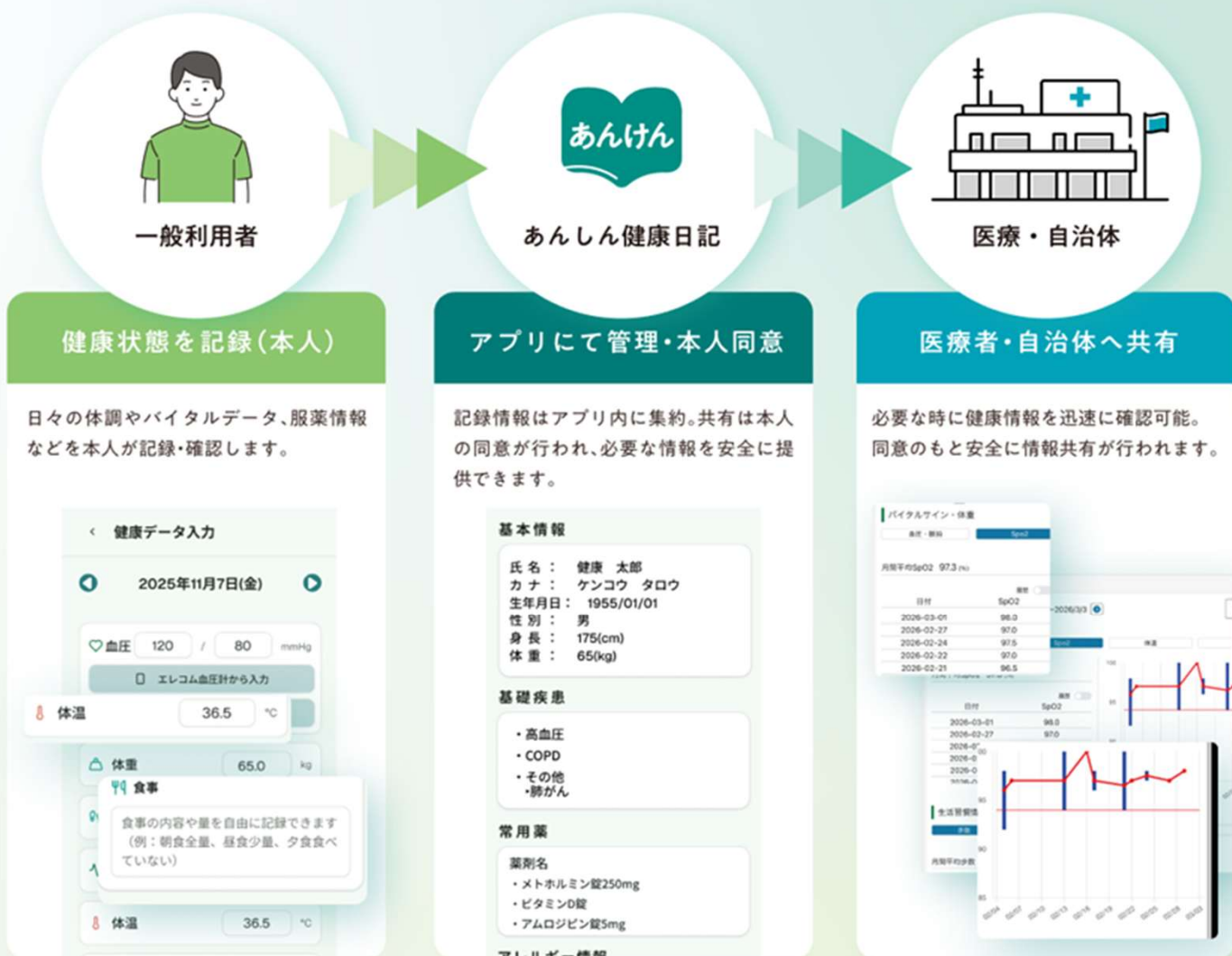


緊急連絡先



かかりつけ医
情報

健康情報をつなぐ仕組み



健康情報管理ダッシュボード

PHRデータをもとに、医療者や自治体が健康状態を把握できる管理画面です。

ダッシュボード画面イメージ▼

The dashboard provides a comprehensive overview of a patient's health data. It includes sections for patient basic information, a calendar view of daily data, a life log with graphs, and medication management.

患者基本情報
・氏名 / 年齢 / 性別
・既往歴
・アレルギー
・服薬情報

カレンダー表示
日別の健康データを確認し、体調変化の経過を把握できます。

ライフログ
ウェアラブル情報と連携した日々の体温・SpO₂・血圧などのバイタルデータをグラフ表示。

服薬情報
服薬履歴を確認し、重複投薬の防止に活用できます。

ダッシュボード画面内容: テスト結果 (健康データ推移: 2026/2/4~2026/2/3), バイタルサイン・体温 (月間平均SpO2 97.3%), 緊急連絡先, カレンダー (2026年3月), 生活習慣情報 (月間平均歩数 8345).

ユースケース

アプリ利用者



平時

- ・ 日々の体調やバイタルデータを記録
- ・ 体調の変化や異常に気づく

Before

体調変化を感覚に頼っていた
服薬情報を覚えていなかった

災害時

- ・ 自身の健康情報を迅速に提示
避難所でも継続的に
- ・ 健康状態を管理

After

バイタルが蓄積され、変化に気づく
避難所でも服薬情報を即共有できる

自治体



平時

- ・ 地域住民の健康傾向を把握
- ・ 要配慮者情報を整理・管理

Before

感染症拡大の兆候を把握しにくい
避難所の状況がわかりづらかった

災害時

- ・ 避難所単位で健康状況を
可視化
- ・ 支援の優先順位を迅速に判断

After

体調異常の傾向を早期把握
迅速な支援判断が可能になった

医療従事者



平時

- ・ 既往歴や服薬情報を確認
- ・ 継続的な健康管理を支援

Before

患者情報が断片的だった
問診に時間を要する

災害時

- ・ 入力されている健康情報を
即時確認
- ・ 医師交代時も情報を円滑に引
き継ぎ

After

情報を即確認でき診療効率が向上
継続的な健康サポートを可能に

今後は、DMAT・JMAT等の災害医療チームとの情報連携も視野に入れていきます。

個人情報を守るセキュリティ設計

本アプリでは、PHRデータは原則として利用者本人の端末内にもみ保存されます。サーバ側には暗号化されたデータと認証情報のみが保持され、医療者が閲覧する際も、本人同意のもと一時的に復号される仕組みです。



平時から機能する設計基盤

マイナンバーや公的医療情報との連携

マイナポータル経由で医療情報との接続が可能。信頼性の高い情報管理を実現します。



ウェアラブル・ヘルスケアアプリとの接続

デバイスや外部ヘルスケアアプリと連携にも対応。日常データを自動取得し、継続的な健康管理を支援します。



体調異常検知・アラート機能

体調変化や異常値を自動検知し通知。早期受診つなげ、平時の予防と災害時の迅速対応の双方を支える機能です。



導入フロー

01



ヒアリング・契約

申込書の提出/契約締結/利用規約確認

02



環境設計

プロジェクトID発行/パスワード発行

03



利用開始

プロジェクト連携して利用スタート

平時から、災害に備える。

災害時に必要とされる医療情報は、
平時の暮らしの中ですでに存在しています。
それを「つなげ、共有し、活用できる形にしておくこと」が、
地域の医療・防災力を高めます。
PHRCは、PHRを基盤とした情報連携サービスを通じて、
平時から災害に備える社会の実現を目指しています。

一般社団法人 PHR普及推進協議会 (PHRC)
〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿西1-16-8 彰和ビル4階

QR

お問い合わせはこちらから
<https://phr.or.jp/>

このパンフレットは競輪の補助を
受けて作成いたしました。
<https://www.jka-cycle.jp/>

